

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町(小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	平成28年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&ligyosvoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神を意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の生命を引き出し、心身の活性化に繋げることを尊厳守すること。そして利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を貫くことが出来るよう援助し、安らかな死をご家族様に見守りながら迎えられるように、職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が地元の住民でもあり、地域との交流が自然に行なわれている。家族の訪問も多く、ホームの夏祭りやその他の行事、外出、外食などには家族が協力している。事業所は、資格取得支援や福利厚生充実により、職員の定着率が高く、利用者や家族の安心感にも繋がっている。利用者の「ありのまま」を受け入れ、生きがいを持って、いきいきと暮らせるように、職員は、様々な気づきから、より良いケア方法を提案し、日々の支援に取り組んでいる。利用者は、職員の温かい見守りと、看護師でもある管理者のきめ細かい配慮により、ホームでの暮らしを楽しみながら、笑顔で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に、恵まれた自然環境の中で、その人らしく思いに寄り添い、最後まで安らかで穏やかな生活が送れるように支援している。	開設時の理念を貫き、利用者がありのままに地域の中で暮らしていけるよう支援している。職員間で会議や申し送り時に確認し合い、利用者が日々の暮らしの中で、喜びや生きがいを感じられるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会員として地域の行事等にも参加し協力関係を築いている。また、職員は地元の皆さんとも顔馴染みとなっているため散歩に行くとき挨拶を交わしたり立ち話をしている。夏祭りには地域の方を招くなどして繋がりを育てるようにしている。	管理者は地元住民でもあり、地域の行事に参加し、住民の相談窓口として協力関係を築いている。利用者と共に、地域内清掃や防災訓練に参加することもある。高校生の福祉体験の受け入れや、大学生のハンドベル演奏会やイベントでの合唱など、地域住民と日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報を守りながら、運営推進会議や自治会の会合に於いてホームの取り組みや生活においてお話し、地域の人に理解を深めてもらえるように努めている。また、必要に応じて介護相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営や利用者の状況をお伝えし意見交換をしている。会議での意見を職員全員で共有し、利用者・家族の想いに添ったサービスができるように努めている。	運営推進会議は行政・地域包括支援センター・自治会長・家族などのメンバーで、隔月に開催している。会議ではホームからの報告に加え、利用者の状況について意見交換を行い、運営や日々のサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市主催の会議で、実情を報告し助言・指導を得ながら協力関係を築いている。	介護保険法の改正や困難事例など、行政に出向いて相談したり、運営推進会議の場でも、事業所の実情を伝えている。地域連絡会議や行政主催の研修、ケア会議などにも参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や言葉による心理的な拘束をしないよう、安全に配慮し本人の自由な行動を見守るようにしている。職員は学習会やカンファレンスの中で、拘束について正しい理解を得ることを学び「拘束をしないケア」を心得ている。	転倒の恐れがある人には、リクライニング車椅子や押し車など、個々の状態に合わせた福祉用具を利用し、行動を制限しないよう配慮している。夜間、眠れない利用者には、職員の近くで過ごして落ち着いてもらうなどの対応で、拘束ゼロに努め、言葉による拘束についても正しく学び、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしており、職員間の情報交換等により日頃から虐待の早期発見と防止ができるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修により制度を理解している。今後、制度利用が必要な利用者があれば管理者が窓口となり支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は書面で十分な説明と理解・納得と安心を得られるよう努めている。また、施設内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等を見て頂き信頼関係を築くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問することが多く、ホームでの暮らしを詳細にお伝えし話を聴く機会を設けている。月1回「小町たより」で利用者の日々の様子を伝えるなど、家族が意見や要望を話しやすいように配慮している。必要に応じて介護記録の開示を行っている。	家族の訪問時に利用者の様子を伝えたり、毎月のホーム便りや個別便りでも、本人の状態を知らせている。家族の相談ごとには時間を設け、家族からの声をケアに活かしている。内容によっては、全職員で話し合い、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンスや日常の業務に於いてその都度、職員の意見や提案を聴いて柔軟な対応をしている。	管理者は、職員の日々の表情や健康状態を考慮し、働きやすい職場環境となるよう努めている。職員から、勤務時間の変更、資格取得についての要望や備品の購入などの提案があり、サービスの質に繋がるよう柔軟に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持ち、互いに協力しあって明るい環境で働けるように努めている。また、個別の相談にも応じ勤務体制への配慮がある。キャリアパス制度の導入、福利厚生にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、リーダー育成研修など、職員に応じた研修を受ける機会を作っている。働きながら資格取得を目指す職員も多く積極的に支援を行っている。必要に応じて施設内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を通して知り合った他施設の方の見学や情報交換ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や入所に至るまでの環境並びに経過を把握し、本人の困っていることや不安に思っていることに耳を傾けながら徐々に信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族と本人の思いを受け止め、不安や要望を気兼ねなく話して頂けるよう働きかけている。施設内の雰囲気や生活の様子、ケアなど見学していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族等の実情、要望を見極め、その時に必要とされている支援を可能な限り柔軟に対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側ではなく、入居者と職員が支え合い共に楽しく、安心した生活を送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら、本人と家族の絆をより深めるように支援し職員と家族が協力しあえる関係を大切にしている。行事等ご家族に参加していただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに築いてきた関係が疎遠にならないように、地域の方、友人・家族の方々に訪問ししやすい雰囲気作りをしたり、電話や手紙・はがきでの関係継続も支援している。また、外出などご家族の協力も得られている。	ひ孫と共に訪問する家族もあり、楽しいひと時が持てるよう配慮し、再来につなげている。友人・知人の訪問時には、茶を出してもてなしている。また、元スタッフが野菜を持って訪ねたり、近所の方が立ち寄るなど、馴染みの関係継続ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や行動を把握し、ともに生活を作っていく環境を支援している。月2回のボランティアの慰問があり他のユニットとの交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて情報提供し相談や支援をしている。また、ご家族からもボランティアとして定期的な来訪がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らせるように本人の話を聞き思いや希望を汲み取り、職員間で共有し日々のケアに活かしている。意思疎通が難しい方も表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲みとれるよう努力している。	本人との会話や家族からの情報で、利用者の生活歴や思いを把握し、一人ひとりの得意なことを引き出し、自分の役割を持って暮らせるよう支援している。カーテンを開ける、洗濯物を置く、日めくりカレンダーを確認する、掃除をするなどをしてもらい、職員は常に感謝を伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作成することにより、これまでの暮らしを理解しその人らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れに沿って、一人ひとりの現状を把握し出来ること、出来ない事を見極め適切なケアをできるように努めている。毎日、個別に健康状態や心身状態を記録し共有することで日々のケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録をもとに、職員の意見や利用者、家族の意見を聞きケースカンファレンスやサービス担当者会議に於いて話し合い検討して対応している。利用者の活力を引き出し、自分らしい暮らしが継続できるよう介護計画を作成するよう努めている。	全職員が、利用者の状態や問題点・課題を事前に提出し、サービス担当者会議を行っている。介護記録を基に、本人や家族の要望を聴き、主治医からの意見を加えて介護計画を作成している。状態に応じて、柔軟に見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気がついたこと、本人の様子の変化等を個別に記録に残し共有することでケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時のニーズに応じて話し合いを重ねながら臨機応変に対応している。また、重度化、終末期における看取りを医療との連携により実現している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方の力を借りながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう事業所全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じて、かかりつけ医は個々に選択している。月2回、協力医の往診があり必要に応じて安心して適切な医療が受けられる。受診時は看護師が同伴し支援している。緊急時も適切な医療を受けられるよう対応している。	契約時に、これまでのかかりつけ医の継続について、本人・家族に説明している。かかりつけ医と協力医は、月2回の往診がある。受診は管理者が同行したり、家族と病院内で待ち合わせるなど、常に家族と共に、利用者の医療情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師ということで、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が常に行える体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は必ず看護師が付き添い病院関係者にこれまでの既往歴や本人に必要なケアの情報提供をしている。入院中も家族、主治医、事業所との連携により早期退院に向けて実現できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期に関して方針を説明している。本人や家族の意向に沿えるよう、その都度、状態の変化に応じ医師や関係者と話し合い、可能な限りホームで暮らせるように支援している。協力医、看護師、職員が24時間体制で連携し家族の協力を得て終末期ケアに取り組んでいる。	医療行為をすることなく、その人らしい終末期を支援し、自然な看取りを行なった経験もある。終末時が近づいた時点で、主治医と家族で話し合いを重ね、その後の方針を決め、家族の付き添いや関係者・職員の見守りを万全にし、終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、研修を行っており職員全員が対応できるようにしている。急変時には、管理者が早期に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の協力を受け、年2回 色々な場合を想定し避難訓練を実施している。初期消火、避難誘導、連絡手順などを確認している。最低限、必要な備蓄を確保している。	年2回の防災訓練は、火災や地震・夜間を想定して実施している。利用者は防災頭巾を被り、中庭への避難訓練を行っている。運営推進会議開催日と併せて行い、住民も参加し、初期消火・誘導・連絡の手順などを確認している。	災害時に備え、利用者の安否確認の方法、避難場所を家族に周知することや、利用者の服薬等の医療情報等を、全職員で共有化を図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様を人生の先輩として尊重し、プライドを傷つけない言葉掛けと対応に配慮している。ゆっくりと相手の話しに耳を傾け寄り添いながら丁寧に暖かく笑顔で接している。	会話が困難な人や、寝たきりの人であっても、表情や仕草を察して声かけを行い、目を合わせて思いを把握するよう努め、寄り添いながら日々のケアに活かしている。排泄ケアの際は、プライドを尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を把握できるように日頃から話しやすい環境を作り、ご本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活リズムを大切にしながら、その人らしい暮らしができるよう可能な限り柔軟な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身に着替えを選んでもらったり朝起きた時には整髪、入浴後には髭剃り、化粧水をつけるなど身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で栽培・収穫した野菜を使うことや芋煮会を行い季節を楽しんでいただける工夫をしている。また、利用者の好みや体調に合った献立を提供し一緒に味わいながら食事を楽しんでいる。	朝昼夕と三食、ホームで手作りの食事を提供している。利用者は野菜の皮むきや種取り、筋むきの作業をしたり、テーブル拭きや箸並べなどを手伝っている。職員も一緒に食し、見栄えや味つけなどを話題にして、次の献立に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、普段から利用者の食べ物の好み・習慣、食事の様子を把握し体調や体重の増減を観察し個々に応じた食生活に支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるよう本人の習慣や持っている力を活かしながら支援をしている。毎晩、入れ歯洗浄剤を使用し義歯の清潔保持をしている。月2回、歯科衛生士のメンテナンスを行い指導を受けている。必要に応じて歯科医師の往診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するとともに、持っている力に応じた排泄方法を考え自立にむけた支援を行っている。パルーンの人もトイレ誘導により、排泄できるようになった利用者もある。	入居時に自立排泄が難しかった人が、職員のごまめな声かけと誘導によって、トイレでの排泄が出来るようになった。排泄の失敗が減ったことから、利用者の表情も明るくなり、動きが活発になった。夜間は、安全の為にポータブルトイレを利用したり、トイレ誘導を行う等、利用者一人ひとりの排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や量を確認し排便チェックしている。食物繊維の多い食品、乳製品、水分補給など摂取し、適度な運動も取り入れ一人ひとりに応じた自然排泄を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴は決まっているが、一人ひとりの希望に添い、健康状態を考慮しながら柔軟に対応している。身体状況に合わせてリフトを使用し安心安全な入浴支援をしている。入浴中はゆったり関わり楽しみながら入浴できるよう心掛けている。	前回、重度者の入浴方法が課題であったが、リフト浴を導入し、利用者の安心と職員の介助負担の軽減につながった。入浴の順番や好みの湯温など、本人の希望に合わせ、職員と昔話をしながら、ゆったりとした入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその時々状況に応じて休息したり、安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について理解し薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために服薬チェックしている。職員は日付や名前を声に出し、本人が確実に飲み終わるまで見守り介助と確認を行っている。本人の状態変化等にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・新聞を折るなど、継続した、役割りを持った生活をその人らしく過ごせるよう働きかけている。また、一人ひとりの楽しみを把握し、レクリエーションに取り入れて参加の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、施設の周辺を車椅子で散歩し、近くには神社や公園がある。散歩が無理な利用者様にはテラスで日光浴など、出来る限り外に出て季節感を味わえるよう支援している。春はお花見に出掛けている。家族の協力を得て、外食や買い物に出かけられる利用者様もいます。	日々、事業所周辺を散歩したり、近くの神社や公園に出かけている。テラスでのティータイムも、外気浴・日光浴になっている。また、中庭で芋煮会や豚汁作り、バーベキューなどを行ったり、家族と喫茶店や外食、墓参りなどに出かけるなど、できる限り、外に出られる機会を多く持つよう、取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様にはご家族の了解のもと自分で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに配慮しながら自由に電話をしたり手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設の理念である如く、五感を刺激し快適な生活空間が保てるように配慮している。	南に面したリビングは採光もよく、清潔で明るい。窓越しに、季節感を味わうこともできる。加湿器や空気清浄機を設置して換気を心がけ、適切な室温管理がされている。紅葉の共同作品や写真を掲示し、利用者が季節感を感じながら、居心地良く過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や生活のリズムを理解して、一人でゆっくりくつろげる場所、気の合う方同志でお話する場所など、居場所を多くつくり、思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、思い出の品や写真などを持ち込まれその人らしさが感じられる落ち着いた過ごせる部屋となっている。	居室にベッドと整理ダンスが設置され、それ以外は利用者が使い慣れた物を持ち込んでいます。衣服や寝具の入れ替えは、季節に応じて、利用者や担当者で行っている。位牌や家族写真、花を飾り、自ら掃除をする利用者の姿もあり、自分らしく居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に応じ、家庭的な雰囲気大切にすることで安全にも配慮し、出来ることを持続して生活を送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町(式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸174番地		
自己評価作成日	平成28年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな地域の中で利用者のありのままの姿を受け止め、自分らしく暮らしていくことができるようにとの理念を職員は、毎朝読み上げ支援していくことができるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は、地域自治会員であり、防災訓練、運動会などの行事や掃除など進んで参加し、協力関係を築いている。当事業所の夏祭りに、地域の方をお招きして参加いただいている。事業所前を散歩されている方、学生さんと挨拶を交わしたりし交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や見学者の受け入れを行い事業所の雰囲気や認知症の方の理解を学んでいただいている。運営推進委員会や、自治会の会合に於いて取り組みや施設での生活を発信し、地域の方の理解を頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催してしており、事業所での様子、行事などをお知らせすると共に、意見交換を行っている。その際出た意見や要望を職員全員で共有し、利用者、家族また、地域の方たちの思いに添ったサービス提供が出来るよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に出席いただき、市の担当者に助言、指導いただいている。また、直接行政に向き困難事例や、法改正など相談し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は、日中、施錠する事は無く開放している。身体拘束に付いては、事業所内で研修を行い、身体拘束による弊害を職員は理解し、利用者の安全に配慮し見守り支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、虐待の防止と早期発見に努め、入浴時の身体変化や、小さなケガなど、職員同士密に連絡し合い、見過ごす事の無い様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。実際に活用されている方も見えるので、制度を必要とされる方が安心して生活を送る事が出来るよう助言していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者や家族に不安や疑問等を感じていないか確認しながら書面での十分な説明と理解、納得を得ていただいている。また、事業所内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等を見て頂き信頼関係を築くよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方が気軽に話しかけられる事が出来る雰囲気や大切にして、家族が面会に来られた際、事業所での暮らしの様子を詳細にお伝えしながら、意見、要望を引き出せるように努力し素早く対応するよう支援している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はほぼ毎日出勤しており、毎月の会議に参加し、出た意見や提案にもその場で対応するなど柔軟な姿勢を持ち、職員との信頼関係を深めるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持ち互いに協力し、明るい環境で働けるように努めている。キャリアパス制度の導入により職員のやる気と、やりがいを引き出すよう支援している。また福利厚生にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員育成の重要性を認識し1人ひとりの能力に合わせた研修を受ける機会を積極的に作り、それに合わせて、勤務調整を行っている。必要に応じ施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議を通じ、知り合った他事業所の方の見学や情報交換を行いサービスの質を向上させて行く取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、本人のこれまでの生活や現在に至るまでの経過を理解し、本人の意向をしっかりと確認した上で、寄り添いながら、その人らしく安心して共に生活を送る関係創りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや不安に耳を傾け、安心して利用していただくことができるように、十分な説明を行い、施設の雰囲気など見学していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様にこれまでの生活やこれからどのように生活を送りたいのかお尋ねし「今、何が1番必要か」を見極め、他のサービスも含めアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者が生活を共にし、悲しみ喜びなどを共感し、お互いが寄り添って支えあう関係を築いていくことができるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り合い、施設に入っても家族の一員であり続けることができるように、家族様と共に本人を支えていくように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、これまでに築いてきた関係をできるだけ継続できるように友達の面会や電話、手紙、なじみの店や品物等途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、「出来る事」「出来ない事」をお互いに助け合っている。1人ひとりの生活を把握し、寄り添う支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様からの情報提供や相談があったり、ボランティアとして訪問をされたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしのなかで、その人の思い、意向の把握に努め、その人らしい、思いに添った暮らしが続けられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活史を作成し、それにより、これまでの暮らしを把握しサービス提供につなげ支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムや、心身状態を把握し「出来る事」「出来ない事」を見極め「出来る事」の継続、適切なケアの提供が出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別ケア会議で、利用者のニーズに合ったケアを話し合いプランを作成、状態変化に対応したプランの見直しを行い、利用者がより安心して暮らして行けるよう検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や気付いた事を、個別記録に記載し、職員間で共有、利用者の様子や変化を把握しケアプランに反映させ実践やプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の時々々の状況やニーズに合わせ柔軟にサービス提供を行っている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力や、地域ボランティアの方々の協力をいただき、利用者が安心して、豊かな生活や意欲を引き出す事が出来るように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向や、馴染みの医院とのつながりを大切に個々選択している。協力医もあり往診していただいている。常に連絡、対応が出来る体制が出来ているため、安心して生活を送る事が出来る様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の生活の中で気付いた事や情報を、看護職員に伝え、異変の早期発見に努めるとともに、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、安心して治療出来るよう入院時には、看護職員が付添、病院関係者に、情報提供を行っている。入院中も、利用者及び家族の支援や、病院との連絡を取り合い、早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に付いて、契約時より説明をし、その後、本人、家族との話し合い、意向を確認しながら、事業所全体で方針を共有し、最後まで、その人らしく穏やかな暮らしが出来る様、家族、医療関係者と共に支援する。そのなかで、家族への支援も行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの作成がされていて、それに、基づき研修を行い緊急手当や初期対応の訓練を行って実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災のみではなくいろいろな場合を想定し避難訓練を行っている。また、緊急時、地域住民の方々にも協力頂けるよう関係創りをしている。各地での災害を自分たちの事として話し合い訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格や価値観を尊重し、自尊心を傷つけない言葉かけや態度に気を付け、常に拝聴する姿勢で寄り添い丁寧に関係性を深めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が「決める力」や希望、願いを会話の中から引き出せるよう支援している。また、本人が主体性を持ち生活出来る様にどうしたいかを問いながら一緒に決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のペースを乱さないよう、「出来る事」の継続を重点に、強制的に成らない様また自信をなくさないように、言葉掛けなどに配慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや身だしなみが継続して行えるようその人の持っている力に応じ声掛けや援助を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、行事に合せた献立を作成、誕生日などに、「食べたい物」を提供している。また、毎日のメニュー表を目の付く所に貼り、だれでもすぐに献立が分かるようにし、楽しみにしてもらえよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、1人ひとりに合った量や形態を工夫し、その時の状態やに応じた、介助を行っている。また、1日の水分摂取量も介助や声掛けにより確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の習慣や能力に応じた、その人に合った方法で、見守り、声掛けを行いケア出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンを把握するとともに、持っている「力」に応じ声掛けなどを行い、その時の状態などを考慮し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や状態を確認している。食材などで自然排便を促すよう工夫したり、水分補給や適度の運動など行い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態を考慮し、基本週3回の入浴日が決まっている。シャワー浴だった方もリフト導入により浴槽に入る事が出来るようになった。入浴剤を使用したり、ゆず風呂など季節的な物を使い「かおり」など楽しんでもらい支援している。また、皮膚の乾燥などにも気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムや体調に合わせて休息している。気持ち良く休める様、寝具や居室環境を、その時々に合わせて調整し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりがどのような薬を服用しているか理解し飲み忘れ誤薬が無いよう何度も確認しその人に、合った方法で服薬介助をしている。服薬チェック表があり職員同士声掛け確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の「出来る事」が継続するよう、言葉掛けや見守りを行い支援している。作品作りの際などその人の能力に合わせて分担し作成した作品の展示により楽しく会話されている。時節を考慮した作品づくりを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や天候によるが、なるべく外の空気や季節を感じて頂くため、出来る限り散歩へ出かけている。また、ご家族の支援をいただき、買い物、馴染みの店、お墓参りなど行かれ、その際の連絡、準備などの支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や力に応じ、家族の了解を得、自己管理している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もみえますし、事業所の電話も申し出があれば自由に使用できる。はがきや手紙の投函、宅配便などの受け取りなど支援している。季節の便りも出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共有空間は、整理整頓がされていて、窓ガラスやカーテンなどを利用し温度、光などを調節している。季節感を感じられるよう環境整備している。また、臭いなどにも配慮し居心地良く過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングで、1人ひとり気に入った場所がありそこで、会話をされたり、テレビを視たりされている。1人でゆっくり新聞や本を読まれたい方も有り、皆さんが思い思いの場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の気に入った物を置いたり、使いやすい様に配置がされている。居心地良く安心して過ごせるよう支援している。本人が好きなようにつかっていたいでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境の中で、その人の「出来る事」を継続して行うことができるように支援している。		